

# 東京の銭湯は江戸の文化遺産・記念碑

2014年 7月 1日  
NHKテレビ

世界の大会、東京には現在700軒の銭湯が残っている。  
戦後、銭湯の数は激増し、昭和43年をピークに2687軒となり最盛期を迎えるが、その後減少の一途をたどる。

日々の仕事を終え一日を優しく癒してくれる場所が銭湯だ。  
東京にはいまだ銭湯パラダイスがある。  
この環境は世界にない日本が世界に誇る場所で、誰もが裸でくつろげる場所なのだ。

銭湯は江戸の文化遺産、記念碑の一つで、銭湯内の富士山の絵が欠かせない。  
富士山は聖なる山としてあがめられていた。  
江戸時代、富士信仰が盛んで、富士山を見ながら風呂に入り身体をみそぐ！が風呂だった。  
人は、素っ裸になればただの人、銭湯は平和の象徴でもあり、大衆の社交場で、昔の人は銭湯で男の粋を学んだという。

聖なる山富士山が最初に銭湯に描かれたのは大正元年。  
静岡出身の画家川越広四郎がふるさとの風景を描いたことが始まりだ。  
湯船を水辺に見立てる斬新な発想は評判となりのちに東京銭湯の定番となった。

歴史ある銭湯の入り口は唐風の建物が多い。  
銭湯の中は天井が高く、殿様の気分が味わえる。  
東京の銭湯の温度は日本一高く、22～24度が多い。  
熱い！熱い熱い！「かみつく」って言うらしい。

## 明神湯

東京都大田区南雪谷5-14-7  
東急池上線 雪が谷大塚からバス 雪谷中学前 徒歩1分

03-3729-2526

営業 時間 16:00～23:30

定休日 5、15、25日（祝日は翌日休）

東京でも伝統的な銭湯の上位に位置する明神湯は大田区にある。

昔ながらの宮造りの外観に番台、高い折上天井の脱衣場、ペンキ絵を眺めリラックスできる。  
男湯には玉砂利を敷いた庭があり、涼むのもいい。

東京の銭湯の建物の入り口の特徴はその絢爛豪華さだ、お寺にみられる宮大工が作った手の込んだものが多い。

更に入り口正面では立派な彫刻がお出迎え  
おめでたい「阿吽の鶴」があしらわれている。  
浴室の背景画は、定番の富士山のペンキ絵、本栖湖からみた富士山が描かれている。また、男女境の壁にも富士山のモザイク・豆タイル画が描かれています。  
非常に明るく清潔感溢れる洗い場だ。

浴槽は3つ。左側に薬湯、真ん中は深湯、右が浅湯。浅湯は超微細泡ジェット(超音波)が2本あり、非常にきめ細かな泡が隅々まで行き届いている。とても気持ちの良いお風呂だ。

